

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こども療育センターきらりん				公表日	2025年 3月 31		利用児童数	2025年 2月 82名		回収数 80枚 (回収率: 97%)
チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応					
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	79	1	0	0	しっかり運動できるスペースがある				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	76	1	0	3	子どもに対して職員が多いと感じる				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	70	9	0	1	療育室の名前がドアに書かれており、ドアを開けると見えなくなってしまうため 掲示するなどの改善をする				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	78	2	0	0					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	79	1	0	0	専門性の高い先生がいる				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	71	6	0	3	支援プログラムの公表が遅れ、周知が されていないため掲示等を検討する				
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	76	2	0	2					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	66	6	0	8	支援計画の備考欄に記載しているが、説 明の際に十分に伝えられていない可能性 がある				
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	75	4	0	1					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	73	4	0	3					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	59	13	0	8	事業所の形態上、全ての利用者が地域の 園に在籍をしているため、事業所として 交流の必要性を感じていない				
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	74	2	2	2					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	74	4	0	2					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	51	9	2	18	ペアレントトレーニング、テーマ別座談 会の開催については次年度は実施したい				
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	76	4	0	0	話を良く聞いてくださり助かっている				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	78	2	0	0	親身に相談に乗ってもらっている				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	77	3	0	0	先生によって違いがある	お子さんの発達課題や保護者からの相談 事項について、全職員で共有し、共通理 解の基支援ができる態勢を整える			
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	49	12	2	17	イベントがよく行われ、参加している	項目14と同様に、保護者同士の交流の場 の提供については、次年度実施したい				

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	76	1	0	3	何かあった時にすぐに対応してくれた	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	77	0	1	2		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	53	13	2	12		自己評価表の公表が周知されていないため掲示等を検討したい 通常の活動内容等の発信については必要性についてアンケート調査を行うなど検討する
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	76	3	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	63	5	1	11		各種マニュアルについては待合室にて掲示をしており、訓練実施報告なども掲示しているが周知がされていないため方法について検討
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	59	3	0	18	避難訓練をしていた	同上
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	66	6	0	8		安全計画については、掲示ファイルに入っていないため検討する
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	64	6	0	10		今後も、事故や怪我が発生した時は速やかに保護者に連絡するとともに、状況説明や今後の対応方針などを説明していく
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	79	1	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	73	5	1	1	楽しく通っている いつも通所を心待ちにしている	子どもさんの好きを増やし、楽しい、次も来たいと思える療育を目指す
	29	事業所の支援に満足していますか。	79	1	0	0	いつも丁寧な指導に感謝している とても満足している 子どものことを一番に考え、親の話も聞いてくださり感謝している	

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	こども療育センターきらりん					公表日	2025年 3月 31日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6						
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	体調不良などの休暇でスタッフに欠員が出た時は、法人内で協力して補充をしている	年次有給休暇を取りやすい職場環境に改善するために法人内で協力し合う			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	玄関が二手に分かれており、来所時、降所時に混雑するため、時間差で降所できるように配慮している	構造的に目が届きにくい環境にあることを意識した連携方法を探る			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	同上	同上			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6						
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5						
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5						
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1		療育の内容についての振り返りは時間を設けて行っているが、事業所としての「職員会議」がないため、業務に関しての意見を常時把握する機会がないため検討課題			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	1		第三者評価を実施しておらず、今後の検討課題			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6						
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6						
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6						
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6						
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6						
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		常に、インフォーマルなアセスメントと、フォーマルなアセスメントを併用し、お子さんの発達課題の把握に努めている	フォーマルなアセスメントとは何か？を理解していないスタッフがいたため、共通理解ができるように普段から努めたい			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6						
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6						

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		今年度は、担当者会議の機会がなかったが、園との情報共有などは児発管が責任を持って行っている	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		岡崎市では「みどりのファイル」を使ってお子さんの成長に伴い、必要な情報を共有することになっているため、必要な書類を作成している	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	2	事業所の形態が「保育後療育」ということで、全てのお子さんが園に在籍しており、事業所として交流の必要性を感じていない	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2	法人として「子育て応援セミナー」を実施している	少人数で、テーマ別の座談会など、要望も多いため検討したい	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	1	半年に一度、全てのお子さんに対し、懇談会を実施している	経験の浅い職員については、児発管が同席するなど対応をしていく必要がある
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	3	年に一度、年長児のみを対象に「座談会」を実施している	全ての学年の保護者交流の場は設けられておらず、今後の課題
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	1		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		法人としての記念行事や餅つき大会などは、地域住民にも参加を呼び掛けている	事業所単位で「地域に開かれた運営とは」について、考えていきたい
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2		食物を療育内で食べる機会がないため、必要性がない
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	待合に閲覧可能なファイルがあり、安全計画が入っている	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	1	「身体拘束」に関する研修は、毎年実施している		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども療育センターきらりん		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 17日		2025年 3月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	82人	(回答者数) 80人
○従業者評価実施期間	2025年 3月 10日		2025年 3月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種連携による、お子さんの発達課題の把握(アセスメント)、支援計画の作成、計画の沿った充実した支援が行われていること	毎日の支援内容とお子さんの様子を共有し、次の課題を様々な視点から話し合い、療育内容に反映させるための話し合いの時間を全スタッフで設けていること モニタリング時期には支援会議を行い、半年の支援とお子さんの成長を振り返り、次の目標を話し合っていること	毎年、アセスメント、支援計画の書式を見直し、お子さんの実情に合う適切な方法に更新していくこと
2	活動スペースが十分に確保されており、設備も充実していること それにより、大きく身体を使った遊び、揺れ具などの遊具を使った遊びなど、提供できる遊びの幅が広いこと	法人内の他事業所での取り組みや、外部研修、地域の園での実践などからヒントを得ながら、お子さんの発達課題に即した遊びをより充実させるための工夫をしていること	法人内での事例検討会を含め、それぞれの事業所での実践報告等、療育の質を高めるための情報共有をすること
3	ほとんどのお子さんが、フォーマルなアセスメントの結果を得ていること(新版K式発達検査、WISCVなど)	保護者に、定期的にフォーマルな検査を受けていただくように依頼し、結果を事業所にも提出していただいていること 日々、結果を職員間で共有し、課題を把握していること	検査結果の読み解き方、そこから発達課題を把握、生活や療育に行かせる点を見出す方法を繰り返し学ぶこと

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	毎年、要望が多く寄せられているが実現できていないのが、ペアレントトレーニングと保護者同士の交流の場の提供	お子さんの学年、通所ベースが様々であり、ニーズの把握自体が困難なこと	事業所単位でそれぞれが動くのではなく、法人全体の課題として認識し、ニーズの調査、実現に向けて取り組む必要性がある
2	情報発信が不足 各種マニュアル、安全計画、避難訓練実施報告等、事業所内に掲示しているが、「わからない」との回答が多く見られる	掲示だけでは情報発信として不十分である	全ての保護者の方に利用していただいている連絡アプリを活用して、情報を確実に届ける工夫が必要
3			